

## 日本研究国際賞授賞式の挨拶

ハルオ・シラネ

このたびは、日本研究国際賞をいただき、たいへん嬉しく、光栄に思っております。審査委員の先生方、そして、本日会場においでいただきました皆様に心から御礼申し上げます。私はこれまで、『源氏物語』をはじめ、和歌、俳諧、説話、伝統芸能、年中行事など、日本文化についてさまざまな研究を行ってまいりましたが、いつも、日本の優れた研究者の方々にいろいろと丁寧に教えていただき、助けていただきました。お世話になった皆様に心からお礼を申し上げます。

今日、北アメリカやヨーロッパ、そしてアジアの若い人々は、まず最初に、文化を通して日本と出会います。海外の若者が日本語を学びたいと思った理由として特に多いのが、小さい頃、日本のマンガやアニメ、映画、ゲームに夢中になったから、というものです。彼らが最初に出会う日本文化は、アニメやマンガばかりではなく、食べ物、建築、芸術作品などさまざまですが、そうした文化をとおして日本に関心を持った海外の若者は、さらに、日本の社会や政治、歴史や宗教、文学や環境問題などにも興味を持つようになります。

戦後、西洋における日本研究では、歴史、宗教、文学という人文学の三分野が主な研究対象でした。また、美術史にもかなりの関心が向けられていました。その後、日本に関する研究は、バイオテクノロジーからロボットに至るまで、ありとあらゆる分野に広がりましたが、人文学に関する研究は、現在でも日本研究の中核であり続けています。

私は人文学を、言語とものとメディアに関する研究、すなわち、テキスト、美術品、視覚的イメージ、パフォーマンスなどに関する研究であると広く捉えています。私たちが人文学を研究するのは、過去や現在をより深く理解するためばかりではなく、文化が権力や社会構造や経済と関連しながら、良くも悪くも、どのように機能しているのか、ということをも明らかにするためでもあります。つまり、人文学研究は、「なぜ、物事はそのようにして起きたのか、そのことの今日における意味は何か、そして、どのようにすれば物事や社会をよりよくできるのか」ということを探求しているのです。現代の脱工業化社会 (post-industrial society) では、メディアが日常生活や政治における私たちの行動の多くをコントロールし、影響を及ぼしています。そうした社会では、人文学が、真偽のほどを含め、伝えられたメッセージを正確に読み取るための重

要な手段となります。人文学はまた、学生が彼らを取り巻く世界と対話し、理解し合うための最も重要な手段としての役割も果たしています。つまり、今日ほど人文学が重要となった時代はないのです。

ところで、日本の人文学研究は、各分野の専門化と専門分野での独自の発展が進んだ結果、多くの研究が一般の人々には理解できなくなってきました。そして、そのことが、人文学は実用的ではない、役に立たない、という誤った考えを助長してしまいました。ですので、いわゆるパブリック・ヒューマニティーズ (Public Humanities) の必要性が増しています。パブリック・ヒューマニティーズとは、研究者がアカデミズムの枠を超えて人文学の研究成果を一般の人々にも意味があり、かつ、わかりやすい形で提供することです。そのような「開かれた人文学」となることで、人文学研究は現代社会に影響を与えられるようになります。

海外の研究者は、日本文化に関する新たな研究を世界の多くの人々に向けて発信することで、パブリック・ヒューマニティーズに貢献できます。また、私を含め、海外の研究者が日本の研究者と連携して研究を進めることで、日本の研究者による優れた研究の成果を世界に発信することもできます。日本の人文学研究者も、海外の研究者と対話を深め、さらなる議論を交わすことができます。

私はこのたび日本研究国際賞が設けられたことに深く感謝しています。この賞は、人文学という、日本の国内、国外を問わず不可欠であり、きわめて重要な分野で研究を行っている私たち海外の日本文化研究者を大いに励ましてくれるものだからです。

日本文化に関する私の興味は尽きることはありません。私は今後も日本文学や日本文化に関する研究を進め、日本文化を海外に広く紹介し、日本文化に関する海外の多くの人々の理解を深めていくことに力を尽くしたいと思っています。

本日は、どうもありがとうございました。今後ともどうぞよろしく願いいたします。